

EurekaXIV

六年制通信 No.13 令和8年7月3日(金)号

程を知る

先日、仙台市の小・中学生の学力と生活・学習状況を調査し解析を行った東北大学加齢医学研究所の報告を読みました。内容は携帯・スマホの利用と学校の成績の関係です。携帯・スマホが学習を阻害するという結果が出るのは容易に想像できますが、私の予想を超えた驚きの結果でしたから、皆さんにもお伝えしましょう。研究所の出した結論だけ列挙してみましょう。

- ・家での学習時間が長いほど成績が良い。
- ・携帯・スマホを使う時間が長ければ長いほど成績が悪い。
- ・明らかにスマホが原因で、学力が低下する。
- ・成績の低下は、自宅での学習時間の長さや睡眠時間と直接関係していない。スマホを始めると成績が下がり、スマホを手放すと成績が上がる。
- ・スマホやタブレットなどを使って、自宅で3時間、4時間と勉強する子は、それらを全く使わず自宅で勉強しない子より成績が低い。
- ・スマホを高頻度で使えば、3年間で脳の発達がほぼ止まる。
- ・大人もスマホを利用するほど思考力や判断力が低下してしまう。こわっ。

いかがですか。怖いでしょ。私が驚いたのは上から五つ目の項目です。ここまでとは思いませんでした。これ、つまり「スマホを使って勉強するくらいなら何もしない方がまし」と言っているわけですからね。これらを受けて仙台市は「家庭学習でタブレットなどの電子端末を利用する場合は、一時間以内の時に成績はピークで、二時間以上の電子端末利用では大きく成績の低下が見られる」と警鐘を鳴らしている、とのこと。研究所の川島隆太教授は、こういう状況を改善するためには「(口頭で注意しても無駄だろうから) 法律で規制するしかありません」と言っています。知っての通り、オーストラリアが青少年の SNS 利用を法律で禁止していますね。それなら我が国もやってできないことはないはずですが、君たちはどう思いますか。法律で規制すべきだと思いますか。誰かが言っていましたが、「その時代の抱える問題はその時代に生きる人にはわからないものだ」そうです。今思い出したのですが、最近元伏見工業高（現京都工学院高）ラグビー部の監督だった山口良治さんが亡くなりました。全く無名の高校を日本一に導いた名監督として、その活躍はテレビドラマ「スクール☆ウォーズ」にもなりました。40年以上前のことです。山口さんの訃報を伝えるラジオもテレビも一様に「愛情あふれる熱血指導で…」と言っていました。今の時代ではそういう言い方しかできないのでしょうかね。山口先生の綽名は泣き虫先生でね、「スクール☆ウォーズ」の名物

シーンは泣きながら部員たちを殴るシーンでした。「愛情あふれる…」ですまされるようなシーンではありません。青春の過剰な一面ですね。しかし、それを見ていた当時の中高生たちは感動し一緒に泣いたりしていたわけです。現代なら即逮捕でしょうな。その時代に生きる者はその時代の正しさで生きるしかないのだと思います。だから、今の目で当時を批判するのも間違っていると思います。

話を戻すと、スマホの時代に生きる君たちにはスマホの「悪」をいくら説いたところで、理解しにくいでしょう。ですから川島教授のように真面目な方ほど「法で縛るしかない」という結論になるのだと思います。私も中学生のうちはスマホなど持つ必要はないと考えています。高校生でも別に持たなくていいと思っています。法で縛れば一番楽なのですが、私は君たちが知性でもって自分を律することができるのが、一番よいことだと思っています。物には程があります。辞書には「程」：「ほど。そこでとどまるべき行動の限界」とあります。そこでとどまる行動、つまり何でも過度になる前に適度というのがありますよね、「ほどほどにする」という感覚です。今は何でも極端に過ぎることが多いと思います。100 か 0 の感覚がはびこっているようで私は嫌ですね。人間の知性を信じていない社会になってきているように思うからです。ですから諸君、法の前に自分の知性で「程」「適度」を身につけてほしいと思います。

今週のおすすめ

・東野圭吾 『浪花少年探偵団』 （講談社文庫）

続編の『しのぶセンセにサヨナラ』と合わせてお読みください。私の好きな連作短編集です。ものすごく面白いですよ。大路小学に勤務する竹内しのぶ教諭。美味しいもの大好き。高校時代はソフトボール部でエース、さらに四番。走るのも早い。口も悪い。手も早い。今から 35 年も前の作品ですから、現代のコンプライアンスでしたっけ、あれに照らし合わせると「???」となる描写があるかもしれませんが、私は全く気にならないので面白く読めました。しのぶ先生が魅力的に描かれていますし、クラスの生徒たちも昔こんな子がたくさんいたなと私としては郷愁を感じるような設定なので、これまた読んでいて非常に好ましく思いました。事件に首を突っ込み、鋭い推理を働かせるお騒がせなしのぶ先生と刑事たち（先輩の漆崎と若い新藤）とのやりとりも面白い。新藤としのぶ先生とは、何と新藤がハイヒールで顔を殴られるという衝撃的な出会いをするのですが、やがて新藤はしのぶに惹かれていき、先生の教え子がそれを応援する、ただし見返りに何かと新藤に驕らせると。しのぶ先生はスキルアップのために大学に内地留学する決心をします。その後のことが続編に書かれています。教え子の悪ガキも中学生になって、それでも先生を慕って何かと関わってきます。新藤の恋敵も登場し、さらに面白い展開が…。最後の「しのぶセンセの復活」は、作者を伏せられたら重松清と答える人もいるのではと思えるくらいの作品です。重松さんは子どもの世界を書かせたら右に出る者がいませんからね。

是非二冊ともお読みください。順番を間違えないようにね。

BGM は Paul McCartney の *Live And Let Die* でした…。